
レインの過去～料理編～

風花

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

レインの過去～料理編～

【Zコード】

Z4596K

【作者名】

風花

【あらすじ】

私が書いている『魔法少女リリカルなのは ETERENAL』のレインの過去の一つを書きました。

?の人はぜひ、ETERENALを読んで頂けると多分、納得します

(前書き)

レインの過去です
たいして本編に関係ありませんがレインがなぜ胃が丈夫なのかわ
りますよ

レインの過去～料理編～

「やつにえば、一つ聞きたいんだけど

食事後、フロイトは唐突にしゃべりだした

「なんだ?」

「どうして、レインと森羅つて咲夜のおじがが食べられたの?」

「た、確かにそうだよね……ちよつと、咲夜さんが怖いナビ……」

少し青ざめながらもなのはもフロイトの質問に同意する
レインと森羅は少し、遠い眼をしながらも問いかに答えた

「やつは……慣れだな」

「ああ。初めて食べた時は眩暈がしたか?」

「いや、お前は凄いよ……なつて俺が初めて食つた時は3日立寝
込んでいたからな」

「向よ～私のおじがりがそんなにおいしくないって言つの～?」

「「おいしくない」」

咲夜が文句を言つとレインと森羅は同時に同じ事を言つて咲夜は少

しくじんだ

「や、それじゃあ、レインはどうして初めて食べた時、眩暈だけで済んだの？」

フロイトが話題を少し変えて質問する

「それは……シスターのおかげ……なのだろうか？」

レインは疑問系で聞き返した。その問いには

「…………」

レインは[冗談だといいながら酒を煽つた

だった

「やうこや、酒もなんで飲めるのか気になるな。何でだ

今度は森羅が質問する

「ああ、それは……」

約10～13年前

レインがまだ5～7歳くらいの頃

その頃はまだ平和でレインも今のよつな感じではなく元気いっぱい少年だった

その日もレインは書庫で本を読んでいた時、ビジネススターが書庫に入ってきた

「あー、シスター。どうしたの？」

「あら、レイン。これから酒樽のようすを見に行こうとしたんだけどちよつと、お酒の名前を忘れていたね。ここに探しに来たの」

「サケダル？ なんのそれ」

「うーん…じゃあ、一緒に『お酒の名前』っていう文字が書かれた紙を探してくれたら教えてあげるわ」

「うん！」

そう言って一緒に探した。探していた紙は簡単に見つかり、レインは酒樽がある部屋と一緒について行った

酒樽がある部屋は他の部屋にない独特の香りに包まれていた

「なにか、とってもいいにおいだね、シスター」

「おー、お酒の匂いがわかるのかー？」

「うーん…嗅いだ事ないけど、でも良い匂いがある

「わー。それじゃあ、ちよつと飲んでみる？」

お酒が何なのかまだよく知らなかつたレインはシスターの誘いに乗つてお酒をもらつた

「うわー。とってもきれい」

「やつでしょ、これで味がわかつたら大人だね」

「大人？じゃあ、僕これを毎日飲む！」

「あつーー、きはだめよー！」

そういうとシスターの忠告を無視しつゝお酒が入ったコップを煽つた

シスターはレインが倒れるかと思つたがその考えを無視しレインは飲み終わつた後キヨトンとしていた

「レ、レイン？」

「なあに、シスター」

そういうつた途端、キューんと眼を回しながらレインは倒れた
その後、レインはお酒のことをしつかり知り今度は酔わない誓いながら飲み、そのたびに倒れたという…

「…」やつこつた理由で俺は酒に強くなつたんだ

その言葉と共にレインは酒を煽つた

「…それってただの無理やりだろ？」

話を聞いた森羅は呆れながらもやつこつた

「それじゃあ、おにぎりに対するは？」

フロイトがしつこく聞く

「……普段は神父が作っているんだが1週間に1度シスターが作るんだ。その料理が咲夜のおにぎりよりもやばかったんだよ……ご飯はただ炊くだけで黒コゲになるわ、物を焼けば炭焼きができるわ、失敗ばかりしているのにそれを食わせたからだと思つぞ……その頃はよく、階で三途の川が見てたな」

レインはものすごく遠い眼をしながら答えた

「……」

その場にいた全員はただレインの過去が悲しいだけではなく危ないところを知った

(後書き)

どうでしたか？

もし感想、意見をいただけるなら嬉しい限りです
本編もよろしくお願ひします

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4596k/>

レインの過去～料理編～

2010年10月28日03時58分発行